

印刷の廃材を使ったプロダクトブランド「Minimal Lab. (ミニマルラボ)」

—SDGs を視野に環境貢献をアピール

(株)アサヒコミュニケーションズ

株式会社アサヒコミュニケーションズ(新井貴之社長, 本社・埼玉県鴻巣市)は、印刷現場で発生した廃材や在庫で余った紙を使ったプロダクトブランド「Minimal Lab. (ミニマルラボ)」を立ち上げた。環境問題が叫ばれる中、「印刷工房から生まれたサステナブルグッズ」として認知度が高まっている。

印刷工房から生まれたサステナブルグッズ

アサヒコミュニケーションズは、創業110年を迎え



Minimal Lab. のECサイト

る老舗印刷会社。ちょうど100周年を迎えた2010(平成22)年に現社名に変更し、「ものづくり企業」からコミュニケーション支援を中心とする「コトづくり企業」へとシフトを進めてきた。「伝え



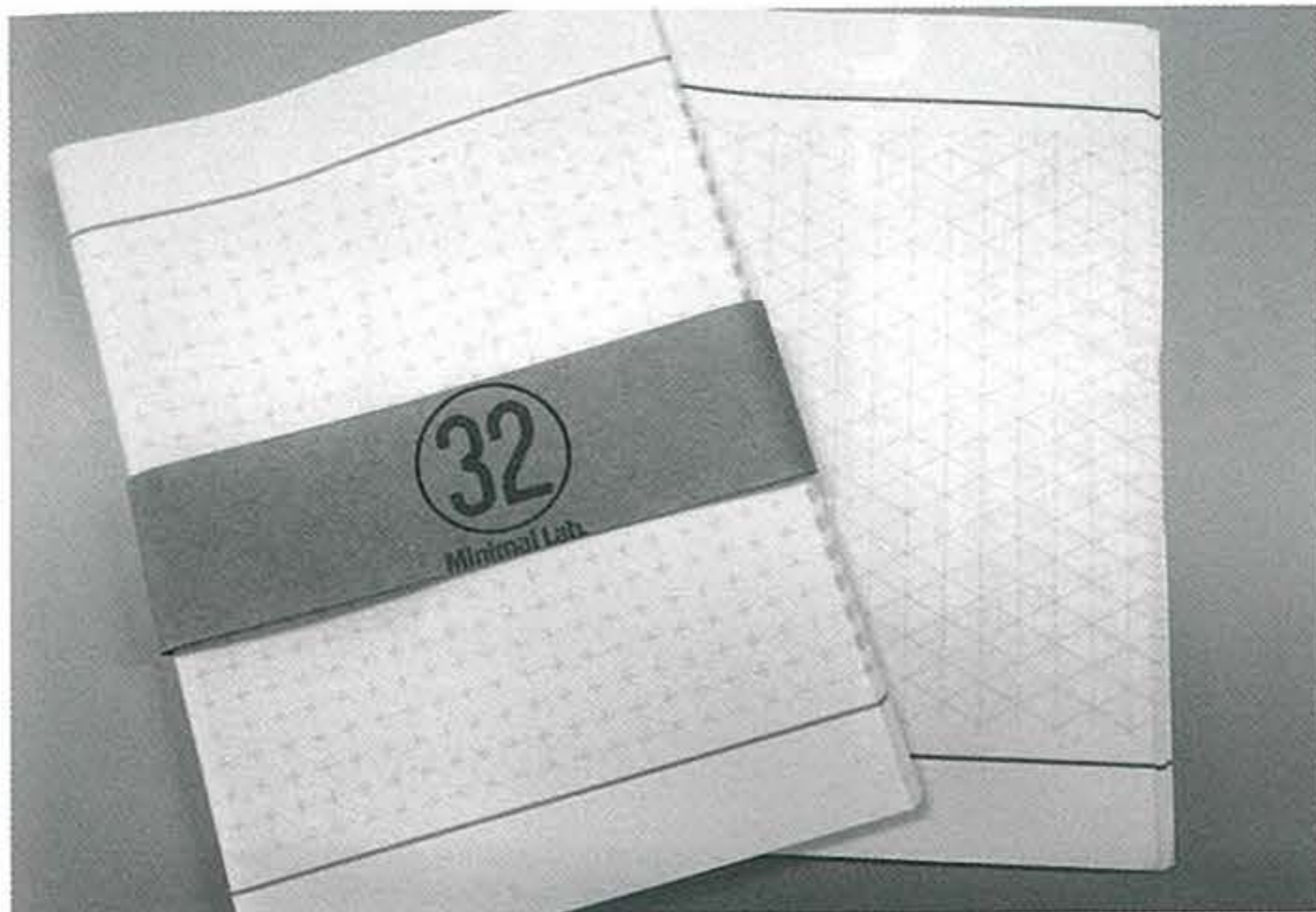
齋藤部長

る・伝わる支援の専門集団になる」ことを目標に掲げ、従来の総合印刷業の枠を超え、広告代理業、マーケティング業務、Webサイト制作・運用・管理、ホスティングサービス、情報処理業、物流支援など幅広く展開する。

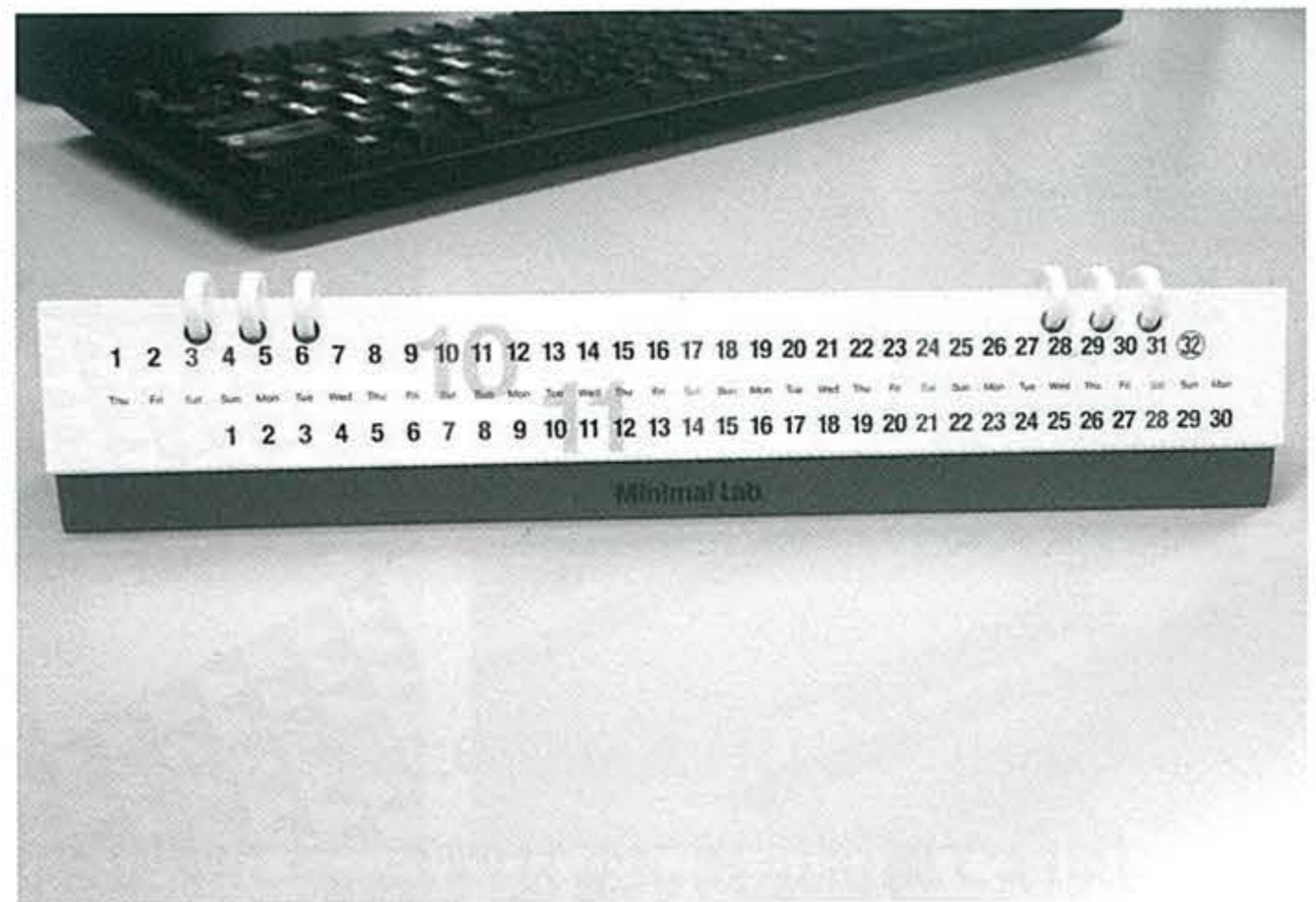
近年、SDGs(持続可能な開発目標)が広がりを見せるなど、「環境」はこれから企業活動をするうえで重要なテーマの一つになっている。

同社においても環境問題への取組みは早くから熱心で、グリーンプリンティング(GP)認定制度を取得しているほか、CSR(企業の社会的責任)にも積極的に取り組んでおり、環境と社会に配慮した事業活動に力を入れてきた。

そうした環境への対応を進めていく中で、「印刷業務の中で出た廃材や、倉庫にたまった紙を何とか有効活用できないか」との考えから、今回のプロダクトブランドのプロジェクトを発足。製造部を中心に、企画、制作の担当などが加わった社内横断的なプロジェクトチームが牽引して、商品化への準備を進めてきた。



メモブック



卓上カレンダー



カラーパッチメモブック



サンクスメッセージカード

同社製造部の齋藤実部長は「今、世界中で『環境』がテーマになっている中、当社も一企業としてSDGsを視野に入れ、小さなことからでも行動することで環境保全に貢献したいと考えた」と話す。

◀ 今ある機材と資材で商品化 無駄がないシンプルなデザイン

「Minimal Lab.」の商品化にあたって、「使用する機材と資材は基本的に社内にあるもの」とし、「自分たちだけで」「今あるものだけで」といった『最小限の人と場所』と、無駄を削ぎ落とした『最小限のデザイン』によるSimple is good! をコンセプトに掲げている。ブランドロゴは、32(ミニ)をマル数字で表現した洒落の効いたデザインとなっている。

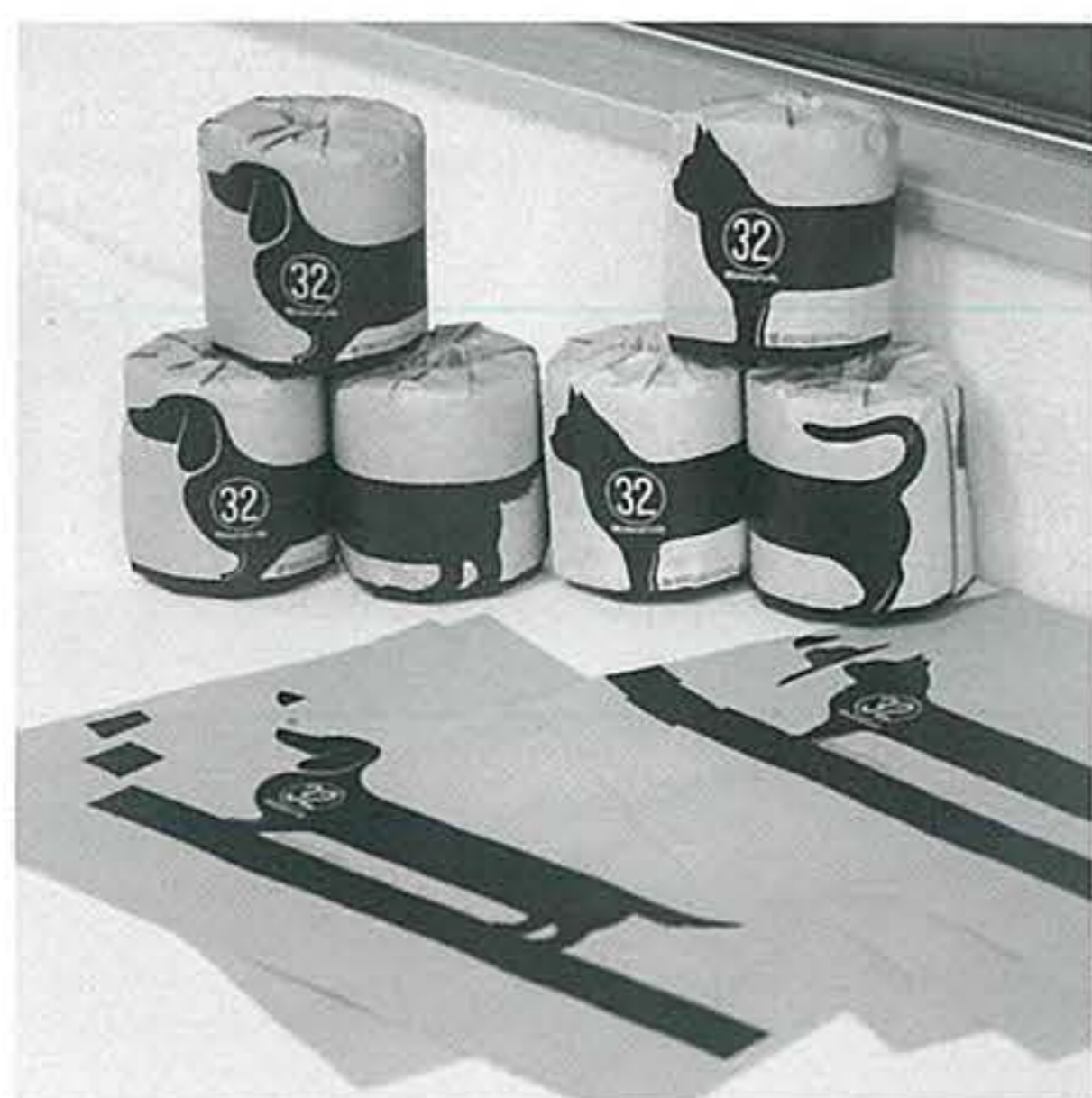
商品ラインアップは、「メモブック」、「卓上カレン

ダー」、「カラーパッチメモブック」、「サンクスメッセージカード」などがあり、シンプルさを追求したスタイリッシュなステーションナリーとなっている。専用オンラインショップ (<https://minimallab.handcrafted.jp/>) を開設し、5月25日から販売を展開している。

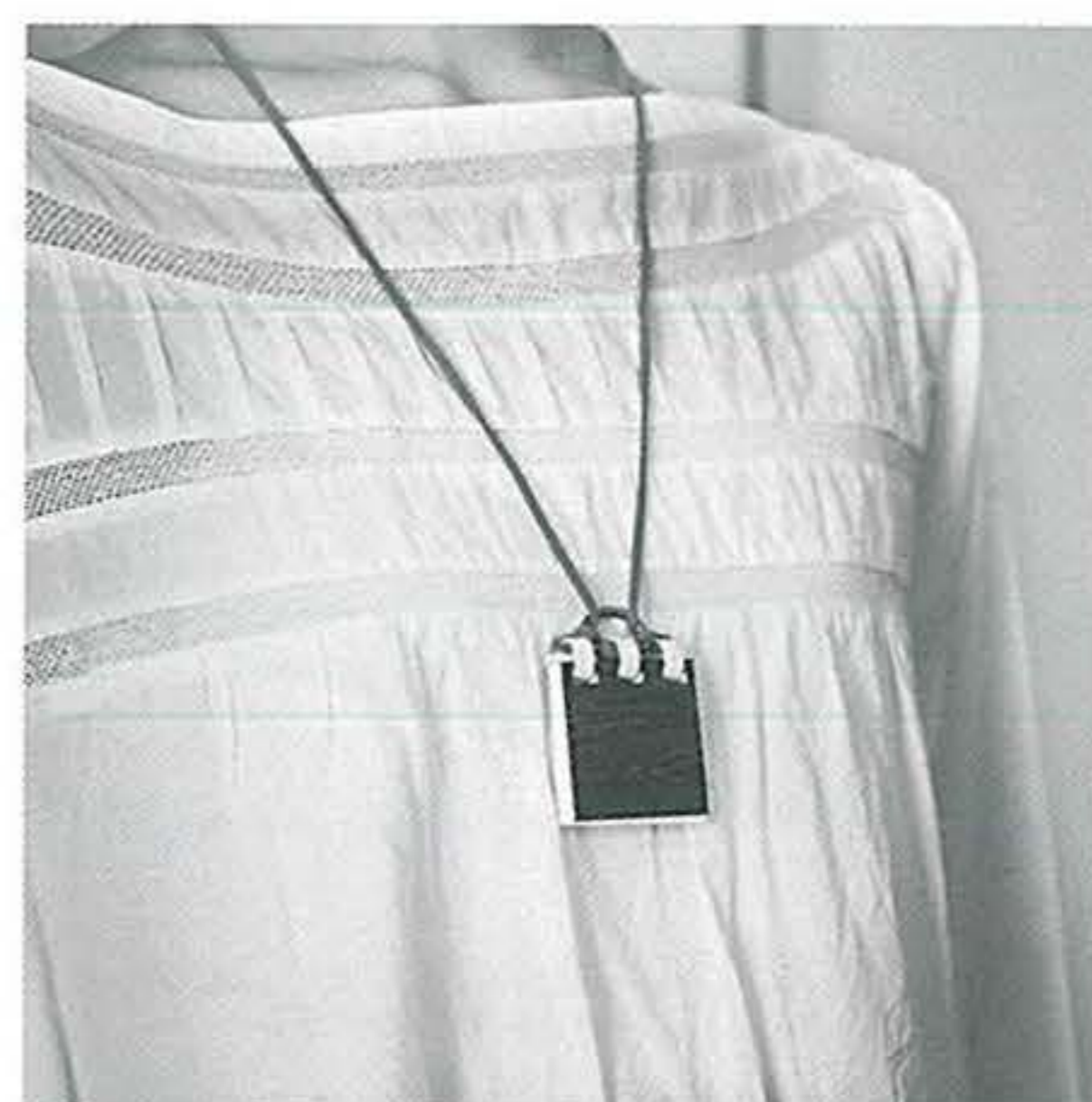
「メモブック」は、在庫紙を束ねて折り、モビロンバンドで留めた文庫本サイズ(A6)のメモ帳。バラ紙なので使い勝手が良く、十字方眼、方眼、罫線、無地の4タイプがある。

「卓上カレンダー」は、パソコンモニターの下にも収まる細長のコンパクトサイズ。31日の翌日が「32(ミニマル)」となっており、遊び心あるデザインとなっている。

「カラーパッチメモブック」は、カラー管理に使う「色玉」をアクセントにしたブロックメモ帳。印刷会社では見慣れた「色玉」だが、「切った断面がカラフルで



ラッピングペーパー・ワンぶ&ニャンぶ版(左)と秋冬版



ガムの捨て紙ペンダント

きれいなのでは」という現場からのアイデアで生まれた。大中小3サイズを1セットで販売している。

「サンクスメッセージカード」は、同じ職場で働く社員同士で感謝の気持ちを伝えるカード。実際、同社が同じカードを使っており、社内のコミュニケーションアップ、風通しの良い職場づくりにつながっている。

発売以降、文具関連のWebサイトで、ユーザーの声として「一目ぼれで注文」「デスクの上に置いて眺めているだけでも気分が上がる商品」と取り上げられるなど、予想を上回る大きな反響があったという。

さらに、8月中旬から第2弾となる新商品を投入した。ブランドオリジナルTシャツ、感圧紙を使ったメモ帳のほか、印刷用紙を包装しているワンプ(撥水包装紙)を使った「ラッピングペーパー」を商品化した。

ラッピングペーパーは、犬と猫のイラストを入れた「ワンぶ&ニャンぶ版」(各6枚の1セット12枚)と「秋冬版」(ハロウィーン、クリスマス、古地図各4枚の1セット12枚)のオリジナルデザインの2種類で、撥水や撥油効果があり、包装紙やブックカバー、ランチョンマットなど様々な用途に利用できる。

また、ワンプを使った「ガムの捨て紙ペンダント」も商品化。ファッション性の高いおしゃれなフォルムで、ガムで路上を汚さないエチケット&エコグッズとなっている。これらワンプを使ったグッズは大変好評で、9月15日現在、品切れ状態となっている。

「Minimal Lab.」のプロダクトは、同社が保有するオフセット印刷機、デジタル印刷機と製本・加工機をフル活用して、社内一貫体制で生産している。

デジタル印刷機はコニカミノルタ製と富士ゼロックス製の2台と、ミマキエンジニアリング製の大判プリンターを保有。プロダクトは小ロット生産が中心となることから、デジタル印刷機を有効活用していきたい考えだ。

製本・後加工機は、断裁から折り、丁合、ミシン入れ、筋押し、平綴じ、背巻き、穴開けまで、一通りの設備が取りそろっている。

▲ 小さなことから変えていく

今回の「Minimal Lab.」を軸に、同社はB to C市場の開拓に本格的に乗り出す。

齋藤部長は「当社は官公庁の仕事が多いが、近年、価格競争が非常に厳しくなっている。今回、自社商品をECサイトで販売する仕組みが構築できたことから、今後、B to C市場に積極的にチャレンジしていきたい」と話す。課題は、「商品開発の維持・継続と店頭販売を含めた新たな販路開拓」を挙げる。

今後の抱負について、「印刷から出る廃材などを利用し、環境に配慮した商品づくりをするという当社の取組み、Minimal Lab.に共感を持ってもらえる人を少しでも増やしていきたい。一人でも多くの人が環境に関心を持ち、小さなことからでも行動することによって、われわれの地球を守ることにつながる。今後も少しずつ商品を増やしていき、Minimal Lab.の想いを広げていきたい」と語る。